

1-2 非木材林産物の利用と食料安全保障～ ラオスの事例

非木材林産物（NTFP）の重要性

ラオスの農村で生活する人びとは、栽培した穀物や、森林・河川などから採集した食料を消費する自給自足の生活を営んでいる。約70%の人びとが山地に生活し、さまざまな形式の農業を組み合わせながら、移動耕作を行っている（NAFRI et al. 2005）。非木材林産物（Non-Timber Forest Products = NTFP）は、そうした生活に重要な意味をもっている¹。

NTFPは、焼畑などの移動耕作によって作り出されるモザイク状の森林や休閑地で採取され（NAFRI et al. 2005）、主食である米の次に消費が多い（Foppes and Ketphanh 2004）。

ラオスの農村では、自然環境に大きく依存する農業が営まれているため、食料生産を一定量に保つことは難しい。そのなかで、食料としてNTFPが果たす役割は大きい。また、家計の全収入の4分の1以下にあたる現金収入においても、NTFPによる収入が40～50%を占めており（Foppes and Ketphanh 2004、NAFRI et al. 2005）、現金収入の少ない家計ほど、NTFPへの依存度が高い傾向にある（Greijmans et al. 2007、Rosales et al. 2003）。

NTFPは、食料としての直接消費、国内市場での売買および海外輸出による収入などをおして、人びとの家計を支えている。米不足の際に、人びとはNTFPを売ることによって米を購入しており、米の生産量が限られている土地の人びとにとって、NTFPは、とくに欠かせない資源となっている（Foppes and Ketphanh 2004）。ラオスの農村では、NTFP資源を枯渇させないために森林を管理し、畏敬の対象として保全してきたが、そのことによって、伝統的に持続可能な農業が営まれ、豊かな自然環境も守られてきたといえる。

ラオスにおけるNTFPの重要性は、(1) 食料安全保障、(2) 現金および現金以外の収入、(3) 森林を利用する小規模農村事業、(4) 家屋の建築材や建築道具、(5) 薬、(6) 野生の動植物および栽培植物の多様性保全、にまとめることができる（NAFRI et al. 2005）。

NTFPの利用状況

ラオスの農村では、現在までに、700種類のNTFPが利用されていることが明らかとなっている（表）。NTFPの種類は多種多様で、農業の営みのなかで豊かな生物多様性が利用されてきたことがわかる。農村に住む人びとにとって、水生動物（魚、カエル、エビ、カタツムリ、貝など）や陸生動物（鳥、げっ歯動物）も林産物とみなされる。これらは、日々の食事における重要なタンパク源となっている（Foppes and Ketphanh 2004）。

おもに商業利用されているNTFPは25種類で、NTFPは、農村における主要な収入源となっている。食品は、おもに国内市場で売買され、医薬品のもととなる薬草やスパイスなどは、近隣国であるタイ、中国、ベトナムなどに輸出されている。安息香（あんそくこう／あんそつ

＜自然と私たちの未来を考える～メコン河流域と日本～＞

こう)は、香水の原料としてフランスに、香木(こうぼく)は、日本やアラブ諸国にも輸出されている(NAFRI et al. 2005)。

区分	種数	例
果物、種	87	シュガーパームの実、Baccaurea berries、Irvingia nuts
葉	86	Barringtonia、Lasia、Azadirachta、Centella
シュート(芽、茎)	23	タケノコ、ラタンの根、パームの芯
塊茎、根	22	ヤムイモ塊茎(Dioscorea)、バンウコンの根
キノコ	16	Ear mushrooms、Termite mushrooms、シイタケ
花	4	Sesbania、Butea
植物(小計)	238	
魚類	300	Cyprinidae(コイ科)、Pangasiidae(パンガシウス科)、Siluridae(ナマズ科)、Notopteridae(ナギナタナマズ科)
鳥類	63	Doves(ハト科)、Partridges(ウズラ・キジ科)、Pheasants(キジ科)、Bulbuls(ヒヨドリ科)、Estrildas(スズメ科)
哺乳類	54	リス、野ブタ、ネズミ、ジャコウネコ、豆ジカ
爬(は)虫類、両生類	41	カエル、オオトカゲ、ヘビ、カメ
軟体動物	7	淡水エビ、カニ、ヘビ、貝殻
昆虫類	5	赤アリの卵、Bamboo grub(竹の中にいるイモムシ)、フンコロガシ
動物(小計)	470	
合計	708	

表 ラオスで利用されている NTFP (Foppes and Ketphanh 2004 をもとに作成) ²

ラオス政府は、NTFPの重要性を強く認識している。しかし、国土の森林被覆率を2020年までに70%に引き上げるとしているため(Lao PDR 2005)、地方行政の場では、数値目標のみを重視する傾向が強い。ところが、森林被覆率を上げるための植林事業は、天然林を伐採して行われることもあり、森林被覆率の上昇が、そのまま生物多様性の保全や、住民が利用できる非木材林産物の安定を意味していないことに留意する必要がある。

＜参考資料：英語＞

Foppes, J., and S. Ketphanh. 2004. NTFP Use and Household Food Security in Lao PDR.

Forest Research Centre (FRC) and SNV Netherlands Development Organization.

[http://www.mekonginfo.org/mrc_en/doclib.nsf/0/BC0D1629438B4CAB472571420024AC37/\\$FILE/FULLTEXT.pdf](http://www.mekonginfo.org/mrc_en/doclib.nsf/0/BC0D1629438B4CAB472571420024AC37/$FILE/FULLTEXT.pdf)

Greijmans, M., P. Phonnachith, P. Thongda, S. Ponpakdy, and N. Chantavong. 2007.

Selected NTFPs for Development in Phoukoun, Xieng Nguen, Ngoi, and Phakxeng Districts, Luang Prabang, Lao PDR: World Vision.

Lao People's Democratic Republic (PDR). 2005. Forestry Strategy to Year 2020 of Lao PDR.

National Agriculture and Forestry Research Institute (NAFRI), National Agriculture and Forestry Extension Service (NAFES), and National University of Lao PDR (NUOL). 2005. Improving Livelihoods in the Uplands of the Lao PDR, Volume 2: Options and Opportunities. Vientiane, Lao PDR: NAFRI.

http://www.nafri.org.la/03_information/sourcebook/Volume2.htm

Rosales, R. M. P., M. F. Kallesoe, P. Gerrard, P. Muangchanh, S. Phomtavong, and S. Khamsoiphou. 2003. The Economic Returns from Conserving Natural Forests in Sekong, Lao PDR. Vientiane, Lao PDR: International Union of Conservation of Nature (IUCN) and World Wildlife Fund (WWF).

＜参考資料：日本語＞

野中健一ほか(2008)「生き物を育む水田とその利用」野中健一(編)

『ピエンチャン平野暮らし—天水田村の多様な環境利用』東京：めこん

(戸津久美子、木口由香)

1. NTFPの定義については、さまざまな議論があるが、ここでは、木材をふくまない森林由来の物産で、人間が利用しているものとする。
2. 日本の研究者の調査では、昆虫類として、カメムシ、コガネムシ、セミ、フンチュウなど17種があげられている(野中ほか2008)。